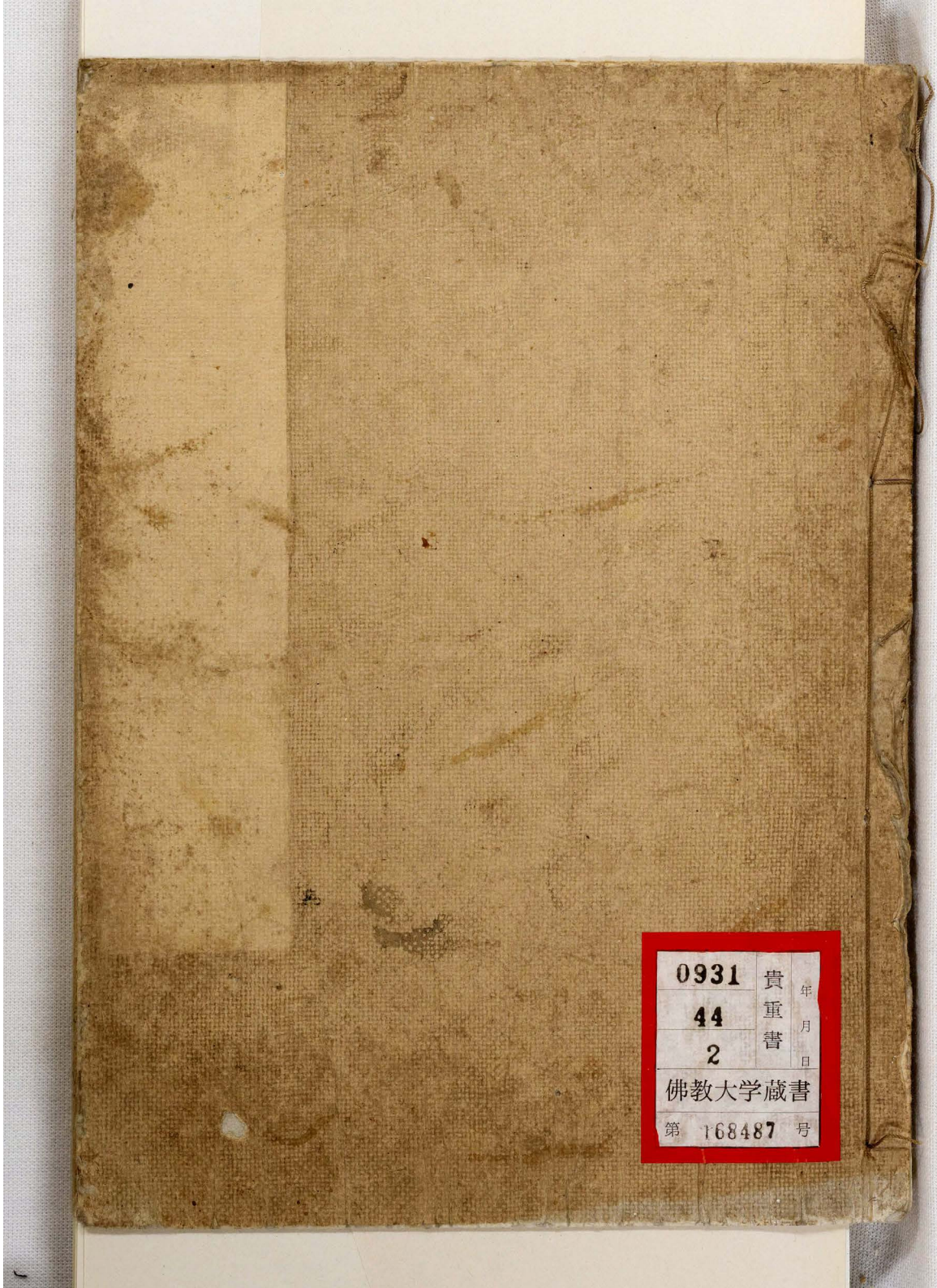

0931
44
2
貴重書
年月日
佛教大学蔵書
第 168487 号

法然上人行状略傳巻之下

鳥羽の南七門より川船よ乗てくだりたまふ時り
上人乃配所八土佐國波多の庄あり一伐兼實公乃
ゆかりひふく讃岐國小松乃庄へ渡し坐てある。
土佐國へ八上人にふく仰ありて。御弟子の中り
無禦入道瑞蓮伐御代官ふたゝり給。時ふ瑞蓮
あよきにふろひ。よくも父母我妻を上人ふ仰そ
うそ給あると歓喜して彼國よりぐそくをとゝの
上人の御船八我乃夜神崎ふ着ふり。御座船八橋

163457

二丁ぞうりよ。ふたあがりーよ。夜よ入てのち遊君
私小掃ぢー来ゐて後生の御ねきでそのにあづう
つゝこーといよ。上人聞あひ宛奇特ありと御前ふ
めさ礼。浄土の法門念佛ね事を御演説有礼ば。中
小徳来といよそもの三才のこふえ風ね。なげきのたう
まくこ出申るハ。上人ハ大徳智者よ御ーませバ家
子乃生所ぞり殺らん。おゝへたまへ。せめて一目見せ奴
隅へと泣あり。上人の給ふく汝ぢ子ハ等活地獄ふ有
ぬーと。徳来いよく我子ハ幼稚ふーて三才あり

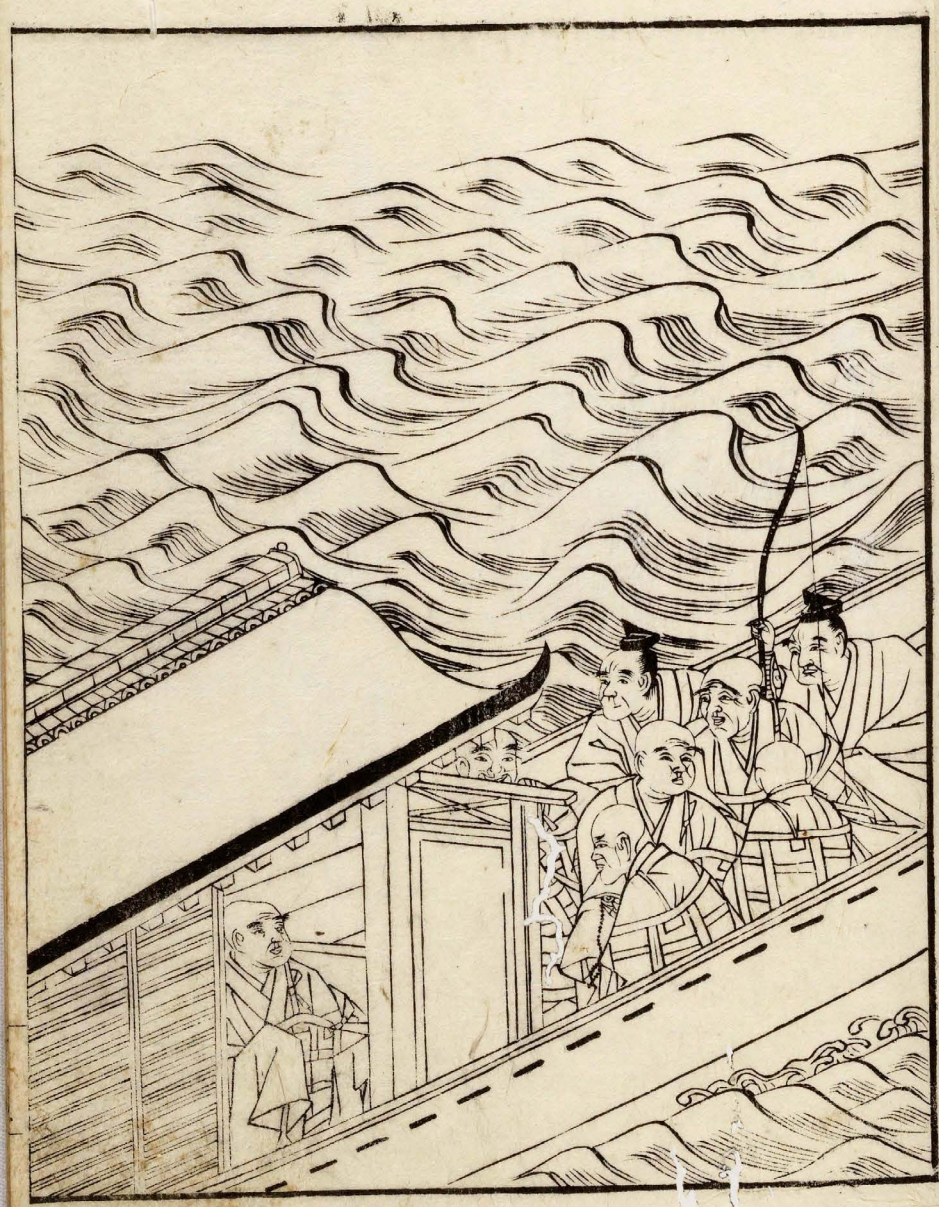
何の罪をねうて地獄よ入候やと。上人の給ふく前世
ふ殺生をるもの人とう御礼てハ短命あり。その殺生の
ね報ひ。ふたつきぢるゆゝ獄苦をうくる。ね報ひそめて
聞べー幼ひて死して地獄ふおつるたとへ。ばいもん。
むうし唐土り劉宋といよそものあり。一男子ね儲し
がこ乃子生て三日よ兎ー等活地獄ふ入。そ乃時
獄卒ふむひ六道輪廻の間いづ乃面よーて佛道
修行をせん。今たまく人界りうまれわづう三日ふ
ーて死して此所きてそれり何のひねありて殺生ね

祈がりん。ねがうくバわれをよこしれいとあれはさ
人衆小阿一弥」。佛遣我俗行して淨土ゟ往生ゑ事
をと。獄卒ゟ我ゟきて汝がゟ事理ありと。一日一夜乃
いと苦我ぞうさ」る。此地獄の一日一夜ハ人間の五十年
にうる。かくて婆婆りよこが」ゟバ父母のようこび
うがり事一。ゟ汝よ一生栄花ゟほこり地獄乃事ハ
ゟ我たて。五十年ハ着ゝぐく又もこの苦活地獄ゟ
おちねその時獄卒彈指して。四方の山木このこゑ」
り候一老をやはれすねーやおーしと呵責せ
しとや。此意ハ春ど小山をて候て空くちる花
を一枝ゟおりて佛よ供養せんゟ。佛うけたまはぐる
ゟ。花乃はまぬぢりーゟ。一旦乃沿来ゟ子我又猴
こうりきてるとゟ呵責の言あり。ゟれバ汝が子
も殺生乃餘残短命なれバさぐこ免て等活よりう
く苦をうくべー。汝疾く極楽よ往生して其子
孫も助べーとおし」ゟ。穢来大りゟゟ我淨土一
てさてハ我子ハ地獄ゟあるゟ。今更なげきて詮ゟ
し。をや念佛して往生一。我子乃苦患も助んせ



念佛坐さづり。上人乃御前を去りぞ玉我船り
ゆるりり。遥乃沖へおぎいぐー西ふむひ合掌し。
南無阿弥陀佛と高声ふ十こゑだり唱つ。我子と
一佛淨土ふむりへたる(と海底に飛入ね。時ふ西方よ
り紫雲たなびき音楽きこ(異香芳きりにぐど
来迎のふ荘。船中ぬ人ぐ各奇異乃おもひ玉ぐ。上人
御覧じ御涙を流ー給ふ。弥んごろふ御回向ある。後り
五輪乃塔坐立てまづ菩提をとむひまつるとぐん

此一段隆覚乃
秘傳鈔ぐ出タり





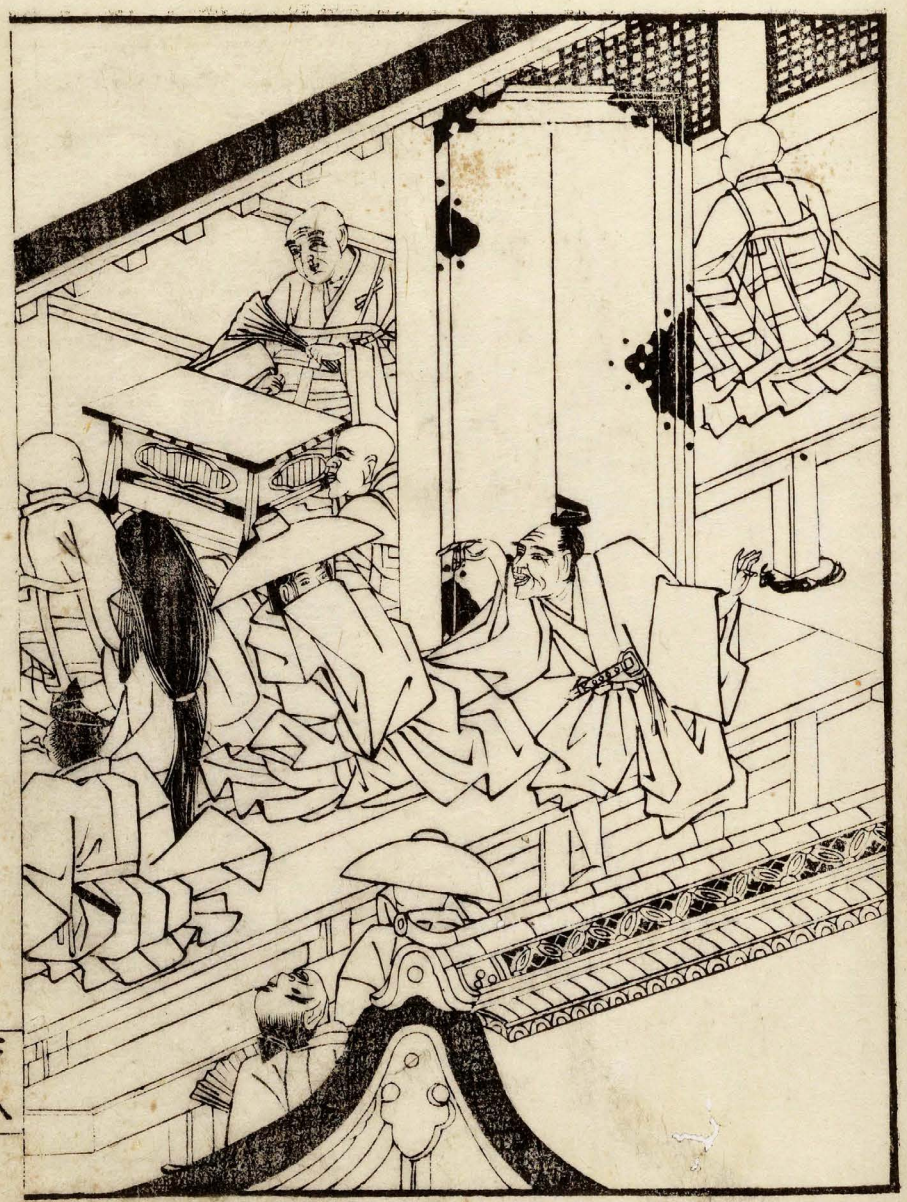


上人神崎乃下り海船ニ乗うつり三月十八日ニ津
国経の島ニ付き給ふ。世ニ云兵庫築嶋是也。平相
国清盛安元ヨリ萬民の為ニおこなひをきづくさら
や。上人此處ニ着給ハバ村里乃男女老少我いろ〳〵集り
きたりて結縁せ。上人諸人のために念佛ノ法門をの
べ給ふ。ニ不思議の事有り。豊前国塩田と云ふ所ニ
左近尉をいふものあり。若時より乃妻にわかれ其身
老年ニおよんで若妻を具し一男一女ニ此妻夫乃
老躰を見もうふさてをもひしら或時何国ともなく

うせられ。左近尉心もおくろかくれ佛神よ
いのりつきて霊験ありてなる観世音のほしまゐら
に一夜の通夜をして祈しかば。薩埵乃御告に都小
のぼり法然上人う聞奉ると告給ふ。ありていそぎ都よ
やうりう。祈しも上人左遷の御時おて京都御立
乃ちとおて詮方なくおもひ入ると伝ふるいしに経の嶋りて
おいつ比なり。数多群集の中へ入御勧誡を聴聞し。
くるまち伝えれバ尋る女房御説法をきいてくる。左近
大ふろこび相具してゆんといふ。書も上人の御説

法を聴聞して人乃心伝やゆんや罪ハ罪深しとそ。心も
さけて二人ともに出家して念佛門へ入ぬ。妻ハ其二
夫ハ六十三。上人乃御教化ゆへ二人とも單心無二の行
者となり。三箇年を経て同日同時に西ゆむひ同音
念佛数百遍よ後往生の素懐伝さぐ。村里の男女往
生人り結縁せんと集来て送葬し。一煙となしおハ後。
彼往生の日ゆりより毎月其墓へ上よ紫雲多な
びきりるとなん

此一段又隆寛ノ
秘傳抄ニアリ







上人乃御舩経の嶋小両三日御逗留翌十九日の夜更けて海上あづかある時。北風よう西南の沖を見れバ白浪高く立て渚よりさりさる程なれく上人乃御舩乃舳先左右よわらまてえへあるハ恐しき鬼神あり。其長二丈ばかりもいろん。色赤き事紅のごし。上人ハ御左よある。又右のうなるハ色白き事白雪のごし。舩中の人く皆気絶うし有よごとり。中小角張成河弥陀佛弐部公西信小向ひいうよ西信公口惜哀小かりごや。南都北嶺乃輩

法然上人邪法を弘め洛中を擯出せらる。船中にて
鬼神乃たゝりさんざんにあどいうと雖も
去れども身ハ恩乃ある仏法ゆゑといふ事乃ら。強令
海中の藻くずとなるとも師乃ために捨る命惜ふ
と。九すぢりの懐剣抜いざ上人の御側ゟ引添
なり。又武部公西信も頼ハ身命を捨て弥陀ゟ帰属
せるといへバ。師とともゟ死ん事毛髪ほども惜
らじ。去バ外典のおしへも命を軽くするハ神
ありとしもの教あるごとい ふたとひ身ハいろ
とくも師の御命ようとそんとぱらく短刀抜持て
扨もござけと握りたる上人乃左の脇へ立まわる。然
り上人ハ仰ていとゞもおそれ給ふ御眼眼ぐらくと
づゝふ念仏ゝ唱おびらくたりやう鬼神申ハいよ〳〵深空
上人我等程に恐ろしきもの我ゝ国事乃りやと。時よ
上人まこと御眼玉ゟ紅涙空ハ汝等ゟりえほうり
恐ろしきものを身ゟもてバ汝等ゟなんぞ恐れんとの
給。鬼神大ゟ驚それハ何ものにてわるや。上人の給く
それバ煩悩といふものあり。無始遠劫ゟりこのかた生死

に輪廻して成佛の本意なげざるハ源空が所持
乃煩惱也仕業なり。汝等ハ今一旦の命をころすぞう
ぞあり。煩惱乃惡ハ過去遠々未来永々我命ぞろ
そものなり。汝等も其姿を泊さる事皆是煩惱乃
仕業あり。曠劫流轉の間ハ予も汝等ごとくの形
をうけさる時もあるべし。其時ほろぼさく無量乃
罪業をほろぼし。佛法乃名字ぞきゝ。其罪業の餘習
猶つきず今よ流轉の元夫とり。去バ昔を思へバ汝等
をそろか何乃怨るく事ぞや。御心ざしよ念佛しる。

時ろ鬼神ら泣ける。實ハ上人ハ道心堅固の智者ぞ
まします。我等ハ土佐国三崎上の岩穴ぞ住もの也。
父母ハ一千年乃寿命ぞて頓て命終をべし。我等ぞ
行末見えてぞして死ん事我悲くあるく。智者
第一とよばれ給ふ上人ちうきうち土佐国へ御出
と聞ふるこびしに。讃岐国よ御入と申ものく。
こゝもとろぐく推參いさゝハ。何年長命の法をさすら。
二人乃親の命ぞのべ。我等一所よ死ん事我悲
頼もると涙ととゝもり申也。上人涙ぐむせび給ひ



仰くありて仰ハ我ら〻長命の法を志ゟり疾く
汝等ぢ二親我連まるべしと。鬼神大ゟろこび悉く
海底りきづくゟりるぴのち讃品御逗留ゟ砌彼
親子四鬼来リ念佛我ちづくり四鬼ともり捨身往
生せし事配所の巻小のせくり。無量永劫限りあれ
長命をあもたんとおもハゞ。唯何事も振すて一向
専修乃称名よ帰をべし





かくて兵庫乃御滞船も三日ゝして同廿一日御船
淡路の瀬戸を過す。一乃谷より須摩明石なと名所
古跡をうとよそく。同廿二日播磨國高砂乃浦
に着給ふ。人家多く結縁ある中より七旬ばかりの
老翁六十あまりとおぼしき女夫ありるが申やう。
わが家ハこの浦乃漁人なるが。たさなくくらすれど
猶業さへ。あまたゆへいろ〳〵の傘をたちて世
をわたるえり事ハ。もの〳〵傘をころもの
地獄におちて〳〵ふかくなるにいろ
〳〵ていまをまねき給へきたをけさせ給へ
とくゝ法あハせて泣ゐり。上人あハれて法
ごとくあるものも。南無阿弥陀佛ととなへ給ふ
佛の出願よ乗じて浄土へ往生をへきむ。猶
ろりまで〳〵給なれも。二人ともに涙よむせび
ゐ、ころびゐり。上人乃給ふけたまふとく
後ハひるハ浦よいでく手よすれごりをふ事
なまぢりあれども。ゐハ名号ばかれ〳〵ゐるハ
家ゐら〳〵りて二人ともりこゝろをひらげて終夜



念佛をとなへて入もたどりなりとぞ。それより源空正念にして往生をとげよりて。そのうへ上人つゐに於て。機類万品なれども念佛をもれバ往生する現證なりとぞ。もとゞめ給ふ。今高砂の十輪寺とよバそ乃礎跡あり





上人の御舩同廿三日高砂乃浦より漕いでゝ其夜同國室の泊よ着たまへバ小舩一艘ちゝづきあるこゑ遊女ゞ舩より。遊女申さくわゝくこゝ乃こゝとの遊女友君とよゝもの。上人乃御舩のりうけたまり推參ー侍るより。世ゝわゝ風もちまちくれゝいゝなる罪ゝりくゝかゝる身とより侍るゝ。ゝ乃罪業れも已ゝいゝふゝてゝ後の世たゝかり候べきと申されバ。上人あゝ死ゝての給ゝく。實りもさゝうにゝく世をわゝり給ゝん罪障まゝふかゝぶれバ酬報まゝはりがゝー。そーかゝ發心ーそ世をわたり給ぬべきそゝり事ゝりゝバすゝゆゝふ其業をを捨給へべー。もー餘のたゝり事もあゝ又身命をかゝりそぶるおどれ道心いまゞこれゝり而ゝハなどバなゞ其まゝふてもぞゝ念佛をべー。弥陀如来ハさゆゝなる罪人乃平生に弘誓願もあゝたまへる事ふて侍る。唯深ゝ本願を平生乃ゝてあゑて早下を後世たのゝて念佛をバ往生ゝゞひゝるまー已よー神んこゝろふなー

忘れバ。遊女随喜の涙弦流し信心乃色つゐに純り。時り上人御筆弦染させ玉名号を認又別よ一首のうた弦書添て遊女ゟあたへ給ふ

仮染の色ハゆゑ乃意ふごとく変ゟ世を悟ゟ世ハ

ゟんごと弦仏法ゟあみてハ身弦も命をも ゟ一毛ゟ惜ゟと

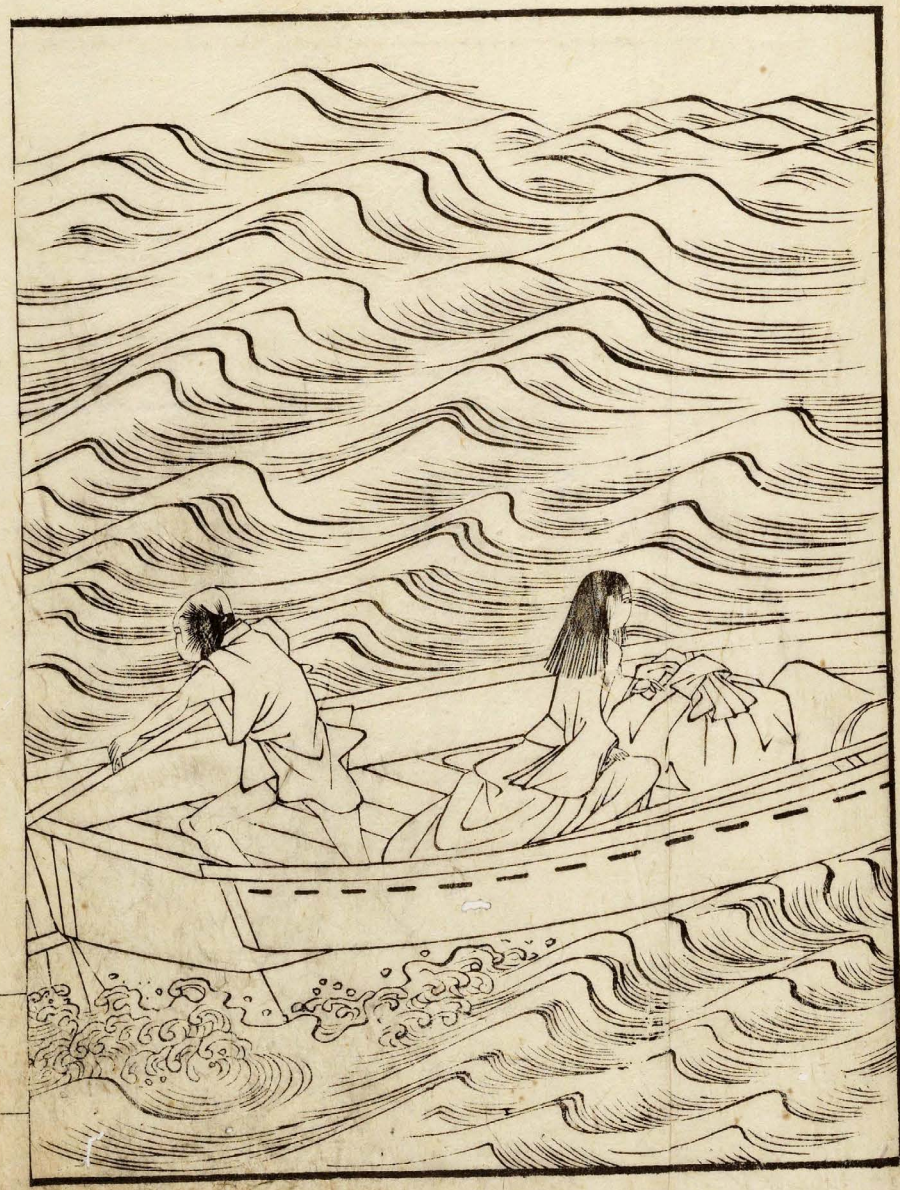
いふこと弦ハ弦詠じ。名号よ添ゟ下されバ友君涙とゞめ ゟおゝいよでき。称ゞるごくバ上人の御姿弦うゟゝ常ゟゑんゝ堂てまつ里ゟきよゝ称ゞくバ。其志弦ゟんゞゝ船中ゟてゝづゟ我ごゞをきぢご置給ゝ弦あたへバ身のおきどころなくよろこび頂戴ゟて ゆりゟり。のちり遊女ごづゟ土弦もちて御躰を法ゟり添一期拝ゝゟゟまんて本意乃ごとく往生弦ごげな。世り此等影弦由縁乃御影と号ゝ今現よまゝ ゟおせり

私云右御影像ハ室津浄運寺ゟ安置ゝ七十五歳由縁の御影と称ゝ奉る。開山ハ朝日山信寂上人あり。播州朝日山ハ真言乃霊場高野の末寺ゟり。ゟるゟり信寂上人ハ宿因ゟゆゑゝゟ法然上人

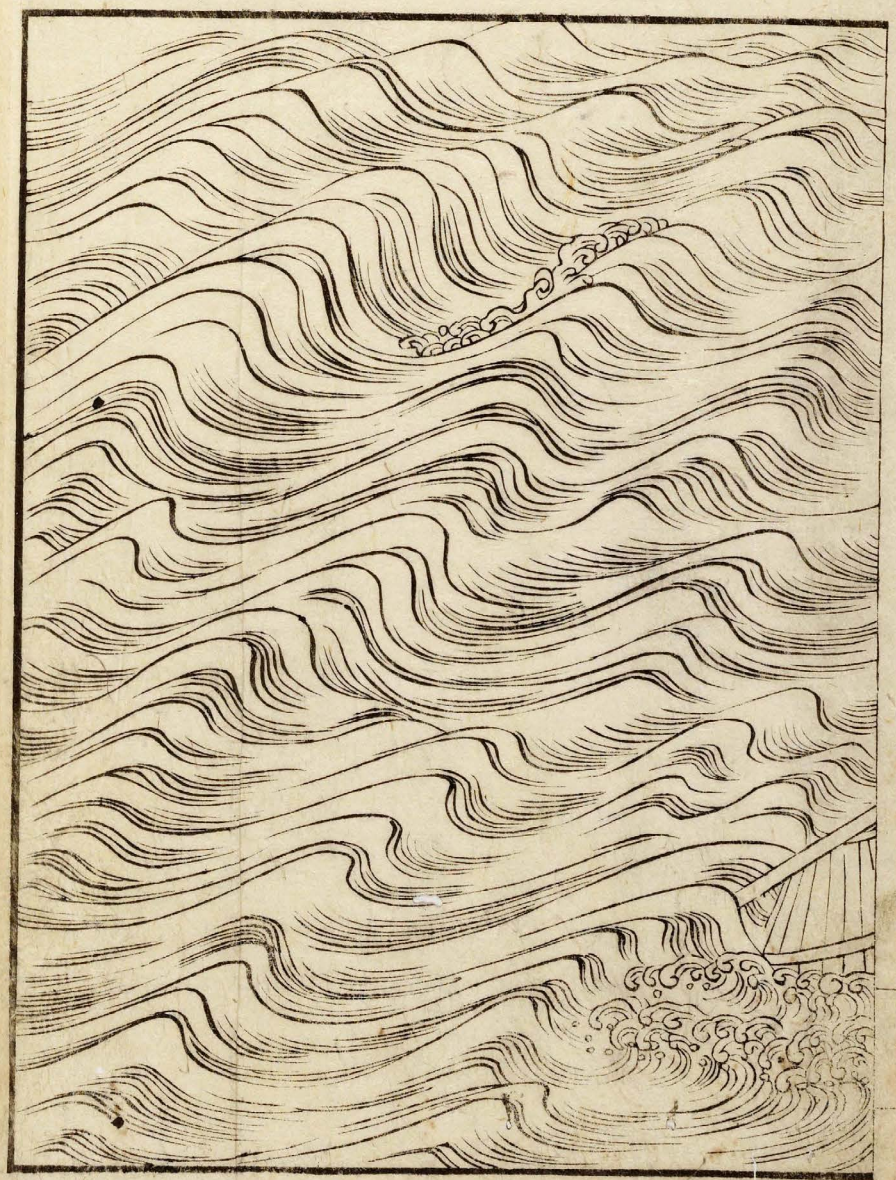
乃勸化を歸依し專修念佛の行者となれり。深く
世間の名利ないとひ德をうくゝして日ごろ
或時室津福井長者といふ富家よりこと遠の者
とよび絖て奴僕乃ごとくめしつかふる。折しも所
乃役人來るく入湯して湯殿のすゝきをられバ
信寂上人ありて客人ひそかに我をのふりを
長者ありてふ。長者大によろこび庵室
をきよめ上人殊に小屋をしむ。信寂上人今も
あんもんして唯西方を祈ひ一向專修の念佛
志ありて庵を西方庵と号し俗よびにでら
といふ。今ハ地名となりぬ。其庵相續して圓誉圓哲
乃時知恩院末寺となり淨運寺と改号し。表門の
前小遊女友君の石碑あり。友君ハ主家ハ秀吉公
ゟ時ゟり御免地とありて西屋某にて當時まで
數代淨運寺檀那にて現在せり。遊女往生の地ハ
寺より西りうりて尼屋のえなといふ是なり。實
に彼遊女ハ大信堅固のものこそ上人乃御舩
室津ゟ出給て後上人の給ふハ彼遊女ハ信心



堅固乃こゝろのありさまで免て往生をとぐべしとの給ふ帰洛の時こゝにて尋給はゞ上人の御教訓残りなくうけたまわりて後ハゝのちう死里ふをとて一篇乃念佛し給ふべく程なくて臨終正念ふ往生をとげ給ふときと人申されバまちうんくとぞ書せうもの







三月廿六日讃岐國塩飽の地頭駿河權守高橋保遠入道西忍が館に着給ふ。西忍昨夜の夢に滿月輪のひかり赫奕たるがとゝやどるとみてあやしと思ひ給ふに上人入御ありければ乃ち夢さめぬと語り給ひけり。先船中の御法談をはじめ奉りて五木八卦乃藥湯等も召し入れ給ふ。其時上人御よろこび紀伊一首の御詠

極樂もかくやあるらんあらたふと重ねてぞ願ふ

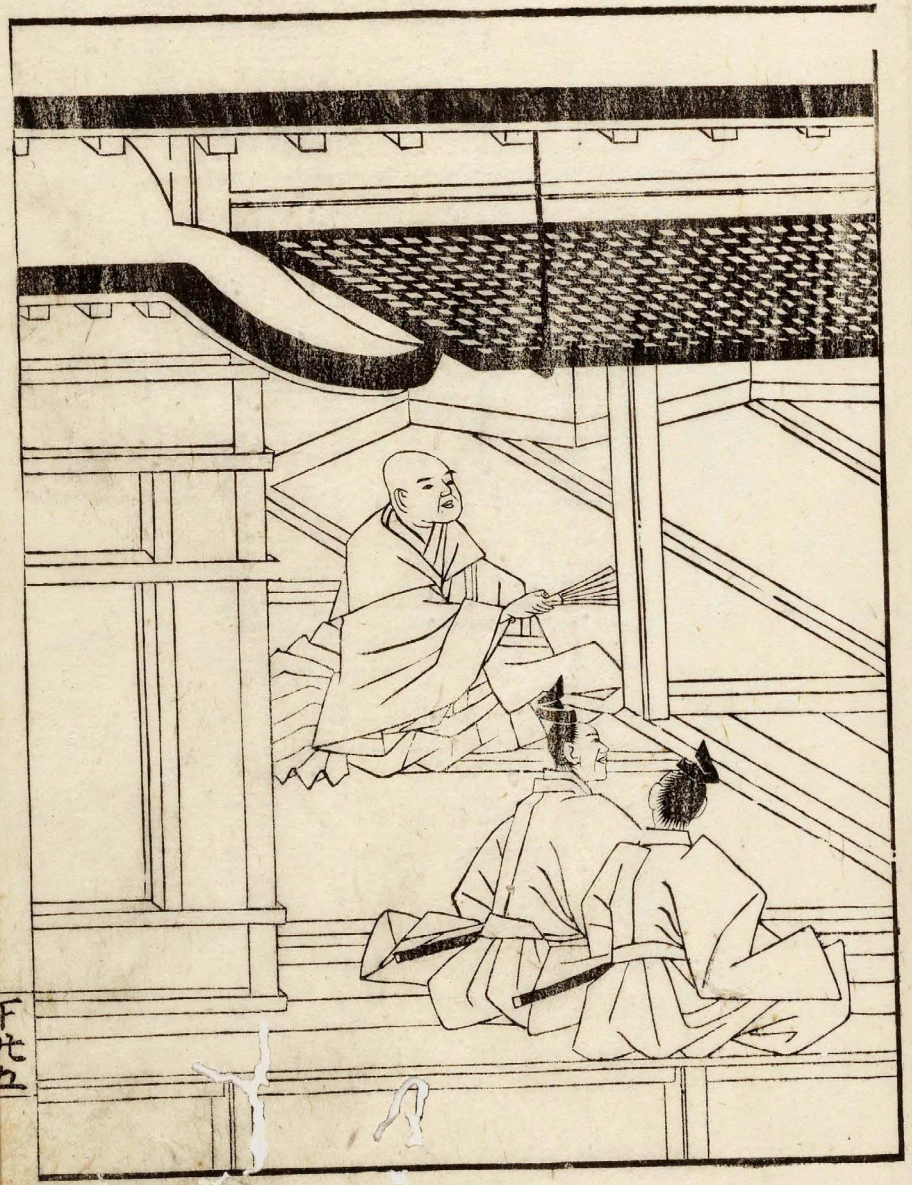
かくて養膳ねんごろにもてなしまいらせ給ふ。上人

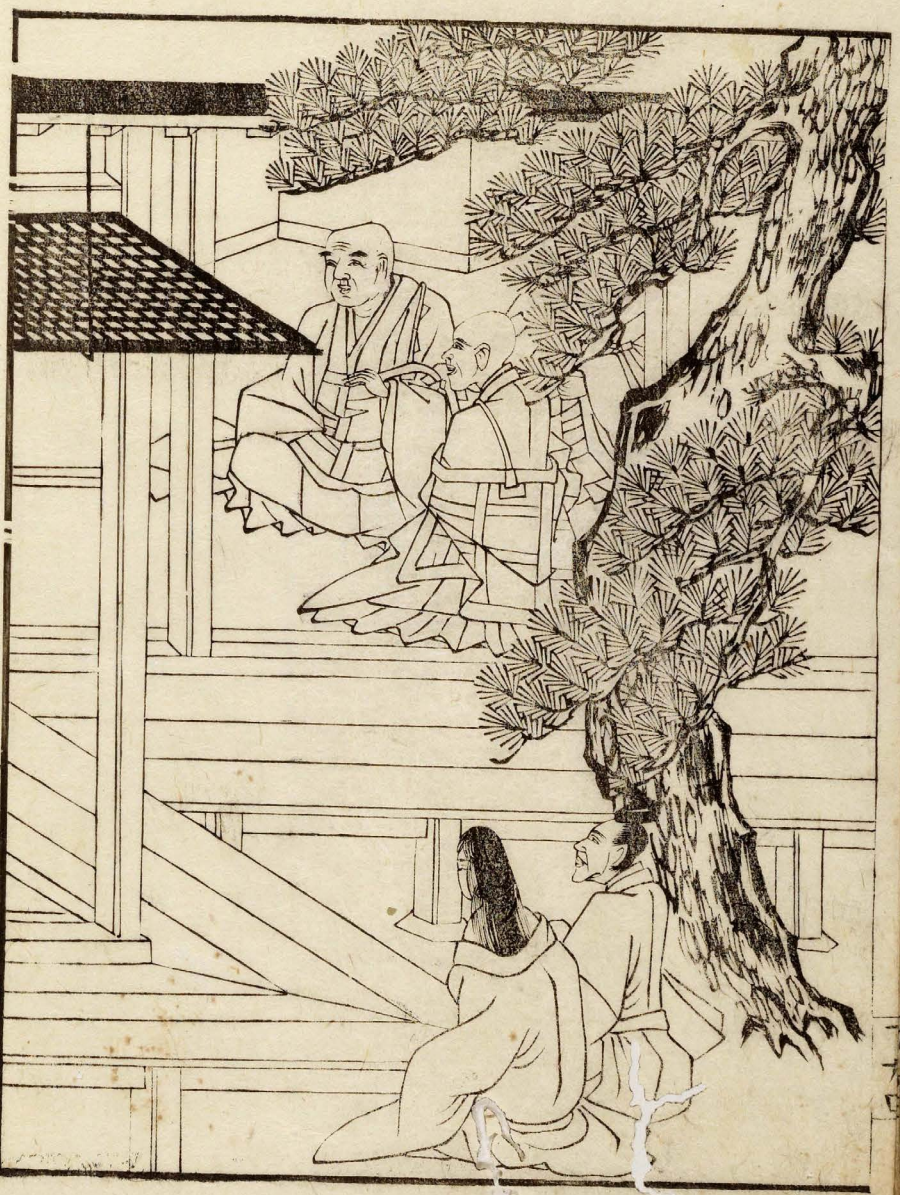
入道に對して念佛往生のそもこまうにたのし。不輕大士乃杖木瓦石をたのび四衆の縁ぜむすびおしぐ〳〵いうなるたり事ぜめぐ〳〵しても人をとゝめて念佛せしめおく〳〵ひろく人ぜたゞ免ふあるぬぞとう〳〵次〳〵附屬しおくまでぺ。其後ハ自行化他ともり念佛の外他事あらりり。上人一両日御逗留乃内たびく〳〵念佛ぜ法門御はなしの節西忍申ふく。我家よ変定地獄よ落べきものく候。されども入道ぐ嫁のうぞあり。八十ふひりて念佛をきゝ候ぐそのそもの父乃子をやしないあんしをるぐ。入道ぐ子ぞもうぞに念佛申ちせんと我乃父の名ぜ西忍孫法佛とぜけて常ふよびあれバ。父ろろこびてはしをきてぞ。おのうぞ父ハよびあしし念佛、きゝひおり。ひおりに父乃よびたぜきハ人のよぶろうて。こよ悪くこゝ罪人よ候と申れバ。上人きゝおひれ往生人ぬりとゝ免おふ。入道申るハ父の名をぶきふよばざる能乃ものいうぞら往生しし候やと。上人の給ふく悪よ法よ比ものハ善ふ比よしとゝふとう



真うだも佛法のいとゞき事なきく治でさゞ
免ゝく深く信じ給はんとあるせをる。うたあで
かきゝてたいそで。あれ入道ぞのくやうに人乃名
あてたまよ人いはゝゝど。きゝあバやゞゝさとり候も
上人乃見參か入。念佛のいとど此事をきゝく
八十三りて出家し。念佛往生をこげるゝ。ものと
上人頓智の訓諫あり

此段又拾傳抄ゝ
出々り







上人の御船塩飽をいでて丸亀といふ在所へ着給ふに大なる荒原ありて家居とてもまれなり。船中飲水小難澁せり。上人船乃拐城をめぐりて海ぎはに至りすこしだみを堀たまへばやがて清水湧出たり。其水今に不思議にて満汐乃時ハ清水汐水ひとつとれどもそも干汐の時ハ唯清水なり。拐城の清水と号し。上人此御蒼跡とあふぎ影像を安置し奉りぬ

因ふ此御蒼跡乃事柄具に記。この一事諸傳記

もとより其元来を尋ぬれバ上人御往生の後宏通法師といふ大念佛の行者ありしが上人の徳風をしたひ御舊跡を諸所より訪ひ歩り。頭然たる枯堀の御舊地空くかくれんことなげき。草庵をむすびて上人の御影像を安置し。昼夜不退の念佛ぞ法せられ本意のごく往生の素懐をとげ。其後ハ丸亀壽覚院乃末庵とある。其後良年を経て密家と律僧恐雁といふもの壽覚院より申て彼庵室を

暫時かりうけ居住せしが京都小のぼり御室御所へ申。真言寺より取たてん事を歎ひられぬ。それいもきてすゝ慧日山光明寺と山号寺号をゆるされける。かくて恐雁北五ハ帰国のゝち地頭へ訴へられバ。国法にてその孫ぴ不届とて北五ハ追放せらるゝ。志ろ死ぞも一旦御室御所より下されし寺号なるバとて。寺号庵号をもちい慧日山光明庵と一数代真言律住持をれぞも。皆元祖大師の影像を學信し



口死て慧月比丘八上人の影堂を新建(しんこん)して常ふ
口称念佛おこたり給(たま)ふ是(これ)偏(ひとえ)に我大師の徳行未世
にさかんなるしるしなるべし此掘堀の御詠とて
毒虫ハ私ちごの指で堀おこすづまの代までもあるべくとや
今石ぶみをたて置(おき)ける六百有余年乃今ふいと
るまで不思議なのこゑハ念佛ハ未世の利益いよ〳〵
さかんなるしるしとぞ



同國小松の庄かたちりき沿よより。當庄の内生福寺といふ寺に住して無常乃ことわり説と紀念佛乃行をすゝめ給ひれハ。當國近國の男女貴賤化導よろこび聞もれ市のごとし。或ハ邪見放逸ゝ事業をあらため或ハ自力難行乃執情捨すて念佛に帰し往生をとげんのおほきより。遍土ゝ利益我思へハ朝恩なりとよろこび給けるもまことにこと

もりよぞおぼえ侍る。うの末ゝ本尊をとハ阿弥陀乃一尊にておハしける故。在國の間脇士をハ

くつくり奉れるうち。勢至菩薩ハ上人にうつりたゝせ給て。法然本地身大勢至菩薩為度申生故顕置此道場我毎日影向擁護皈依衆必引導極楽若我此願念不令成就者永不取正覚とうたがひなく成就する。勢至の化身としてこゝろ其躰をうつし給ひされるゆへにてぞ侍る。おの〳〵此事をよくく心得給ふべし。一切衆生を利益せんがために本地の姿をうつしてこの寺にうつりおく。是本地の神力をもりて毎日おくり来りて帰依の輩我海より。後生ハうたがひなく極楽へまいりぬべし。是をもつて願をおこし此願むなしくハ我なんぢ〳〵成仏をまじとちかひ。此文を書おきたまふ事なり。上人其比當國一見し給てあこの浦綾川乃水面にのぞみ給ふより。頂上ハ宝瓶のごとくなり。すれども其影像ハうつし今此文を書給しが。帰洛乃時當寺ニ残し置給ふゆへ置文の御影と称する。程経て後泉涌寺の十禹上人吉夢にうつして此尊像を感得し。今現ニ彼寺ニ安置し給ふ。

私云生福寺ハ元真言ニて弘法大師の建立観
音霊験乃道場。金毘羅ハ東半里ぞり高松
の西南七里ぞりニあり〳〵。乱世ニ侵さ礼久
〳〵敷絶ぞ。のちり當國ハ太守四位少将源
頼重朝臣。寛文年中入部ありて絶ぞる乃ぞ礼
おこし。彼生福寺をうつして元祖暫住乃舊跡
安穏攸求ハ道場なゐバとて来迎堂を建て
不断念佛ぞ礼始行せ〳〵ゐ。佛生山来迎院法然寺
とぞ申乃ぞ。又生福寺舊地より西南一里ぞり
ニありて法然堂西光寺といふ御舊跡ありて
上人御直作乃影像を安置ぞ。左扉佛ニて信心
者をとゞめバ開帳ぞ。此所ニて上人の御哥
さむくとも被りゐよあの風絲乃ほり吹とあり〳〵だ
かく詠じ。小松九本一握ニて我勧むる所の念佛
未代ニいよ〳〵繁昌せバ此松ひこばえありて
さかへよと植給ふ。根本一ツにして枝ニ
九本ぞりとぞ。是念佛乃繁昌往生の證
拠ぞり。此東北半里ぞり高篠村西念寺と

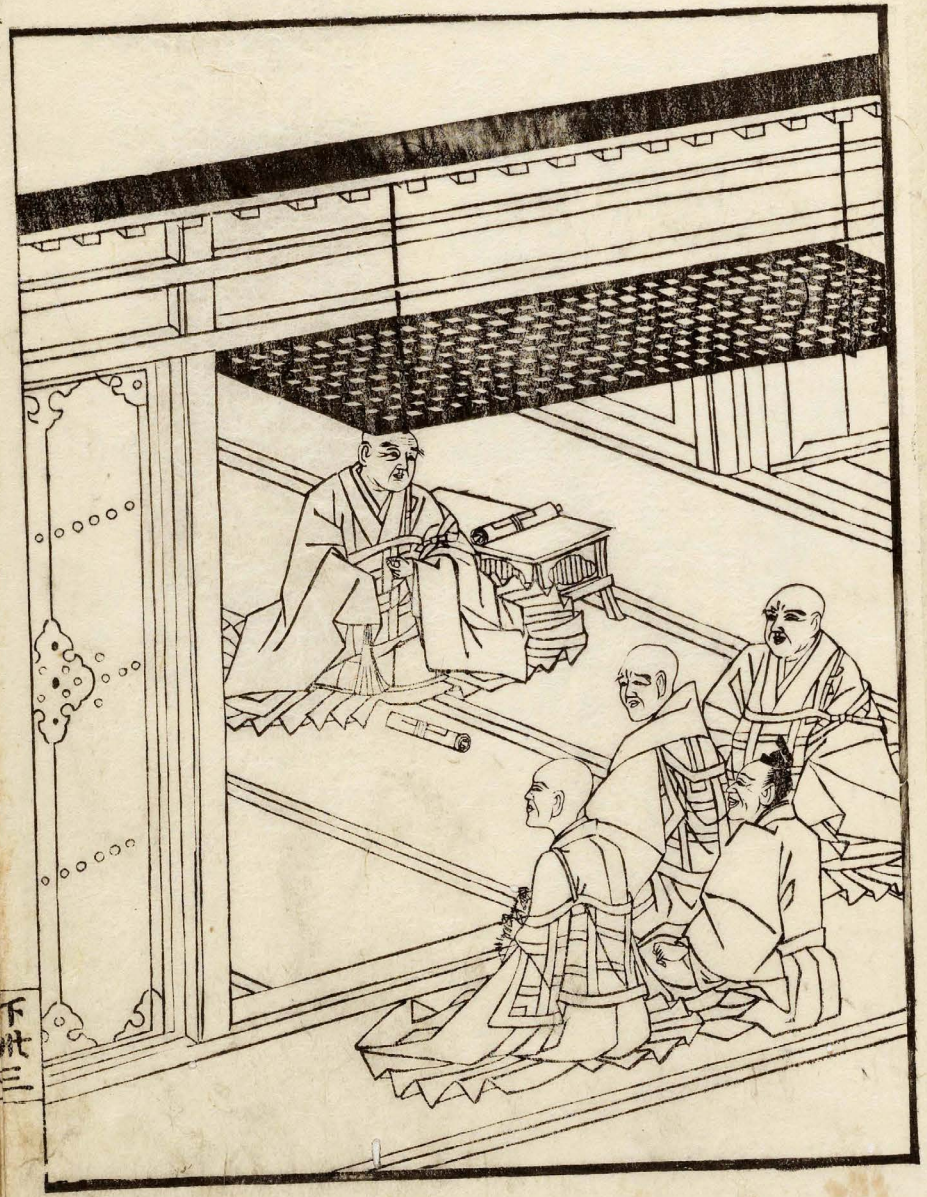


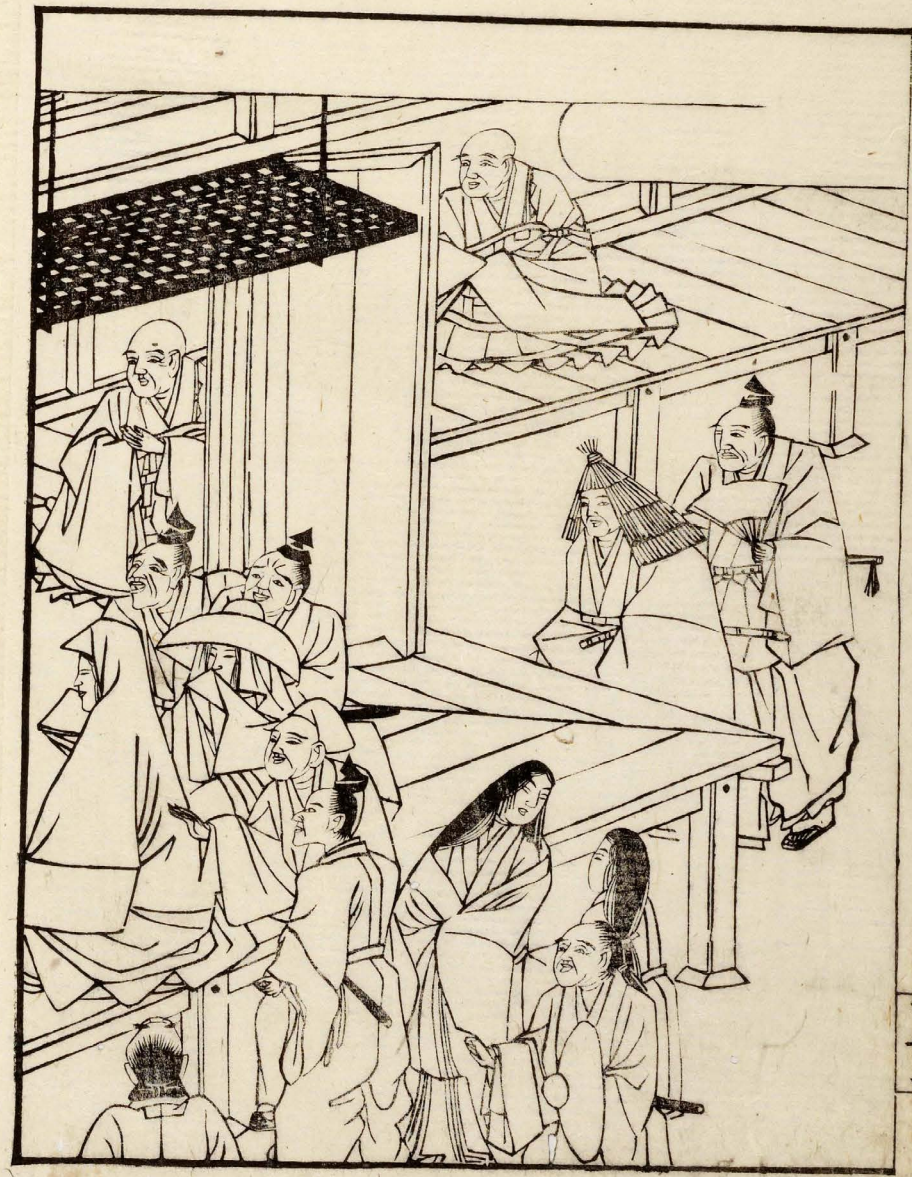
下七二

よすまあり。是又上人の御蒼跡。山の上小御廟を立て上人の御遺骨收おさむ顕然たる御遺跡なれど。其上邊鄙の事にて念佛も御まをす人も召仕ありくさはぐ御苦労行をしう。毎年七月廿五日踊念佛という事をはじめ田夫野人を勧め給ふ事。今は退轉をく年々例式となりて勤るハうらやましき事ありうり

今ハ高篠 北条 坂本 と三組よりて年がうりに勤るなり

弐ハ 鉦鉢八十挺 團扇八十本 六字旗五十本 是ヲ持鉦ヲタヽキテ念仏スル事なり





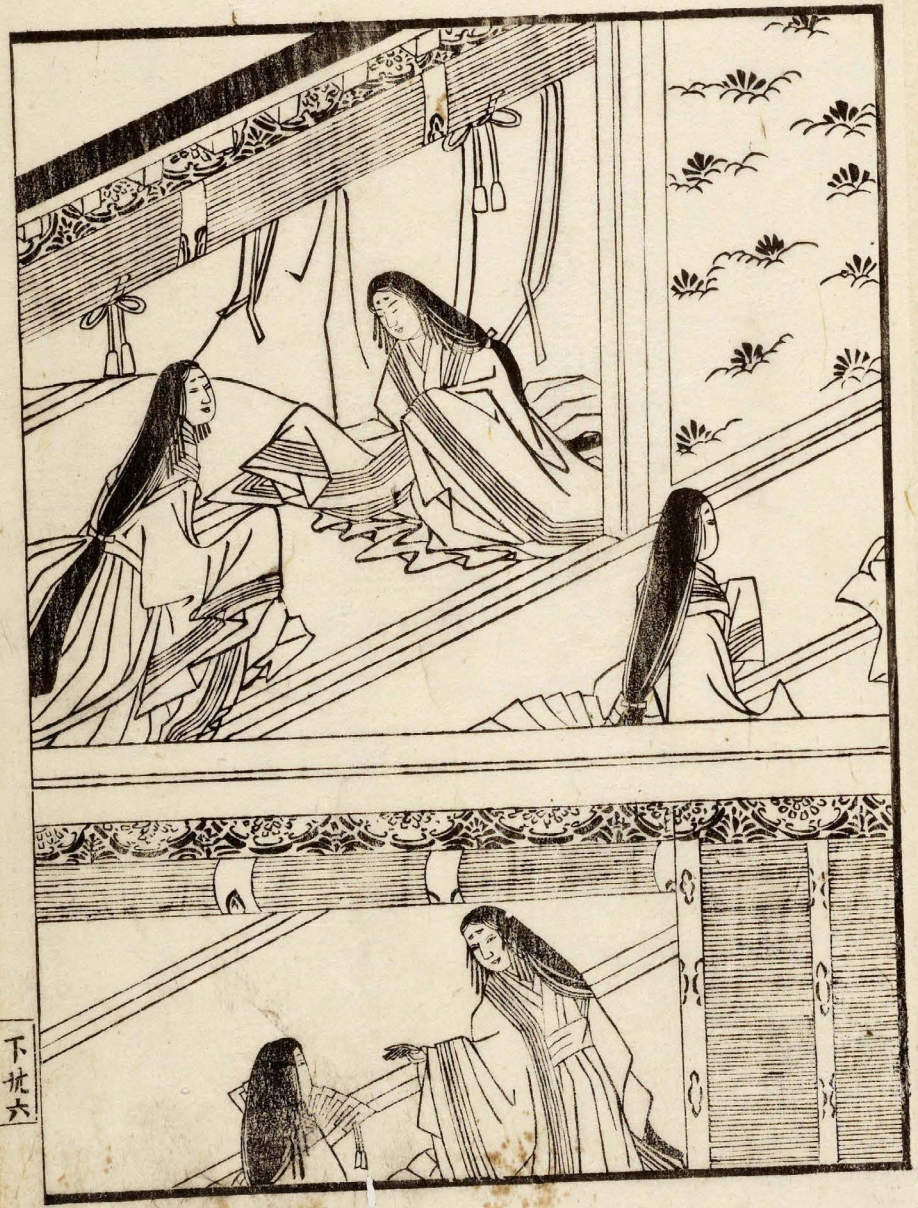
禅定殿下ハ上人を召る事仏乃ごくうそく
毎度の招請。其たびごと小送迎志給ふ。ある時上人
左遷ノ罪ニおこなわれ給ひ御おん代一ごさなく候。
土佐の配所ハやうなく讃岐國とハなれども給へども。
そのうちハ朝暮乃御なげき親ばらゝ事ながら。
日ころ乃ふかきいのくおもらせ給ひ御臨終
ちんくとして藤中納言光親卿をめされ仰ごとく
ゝ。法然上人帰依の事ハ定めて聞および給ふらん。
ゝる和上人おもひよらび弟子の罪を師よりおよぼ



勅勘なかゝりて遠流となる。其時は詫も申さゞりて配所へうつり給ひて生て世ある甲斐あれり似なれども遥難をもよくまもりはせバ左右なく申さん事おそれ有ゆへり。後日沙期してをぐる所今ハ此世乃うゞりとむだがめる今生のうらこの事小なり。ひとへ他事にあらむくとふとも連々ご御氣色拔うらゞひ恩免を申ゐこあひ出まあらむとうれくごき作せらるゝ。先親郷御涙よむせび申せの前更小如在をねぶべうさるよし申されバ。殿下御よろよび

なくめでたく同四月五日御年五十八をおて陰終正念にして禪定に入らごとく往生の素懐をとげる

弥ふ實小ひろごき御事あり





上人在国のあひだ國中靈驗の地巡拝し給ふ中
善通寺は弘法大師父のたゝかたてゝ孔雀寺
ゐれつとり。此寺ゟ記文よこびも詣ん人はかならず一佛淨土のさともあるべしとなりまた乃至
ゟひでこの事ありとぞ語こび給ふ。御參
詣乃前夜ゟの寺ゟ寺僧乃夢ゟり。明日勢至菩薩
来て観音菩薩ゟ對面ゐるぞと十四五ぢゟり乃
童子ぢるとおもふくさめぬ。翌早朝此由を寺
の一老へゟるゟり寺中に参えるものおゝしゆへゟり
おのく不思議ゐおもひあへ。上人御參詣ゐれ
バ兼てきく法然上人ハ勢至乃應現ありとおもひ
あハしてそゝくく信心の生れぢる我ゐ十念を
さづりうやまいゐる。ゟれゟり上人智證大師御誕
生乃金藏寺へ參詣し下向の砌廣庭へ鹿鬼の類
おびゝしくいできたりをこしもおそるゝ気
なく上人よむひあへ。上人かもゟふむひて十念
し給へバ鹿も鬼もたづくく法きそひ来りしゝ
御送ゐ城中ゟと各不思議乃おもひをなしゐり。



下卅八

むゝー道昭和尚と云人入唐の時ハ五百の猛虎
ゐぎを屈して法ばきく。今法然上人ハ鬼鹿ゟ
むゝひ十念を授与あれバ畜類上人ゟ送ゟたて
まつる是未代ゟハ希有の事ニゟり

下卅七

讃州志度乃道場ハ観音霊験の地日本無雙
乃勝跡あるべ上人ゐでたまわんと船ゐて磯づ
ひゐ行ところ俄ゐ風吹村雨ゆうき半り程ゐく
日暮れぬれバ船ゐて一夜をあゐし給ふ。三更乃
比かの兵庫にて長命の法御約束ありし鬼神
二親を連来る。時ゐ上人彼鬼神よむひ云ハ
汝等ぢ二親あるうと云給へ。いうゆも我等ぢ二
親あるを御弥ぢひ申置ゐ長生不死の法をゐこへ
給へとふ。上人随身れるものゐもたせありきたまふ

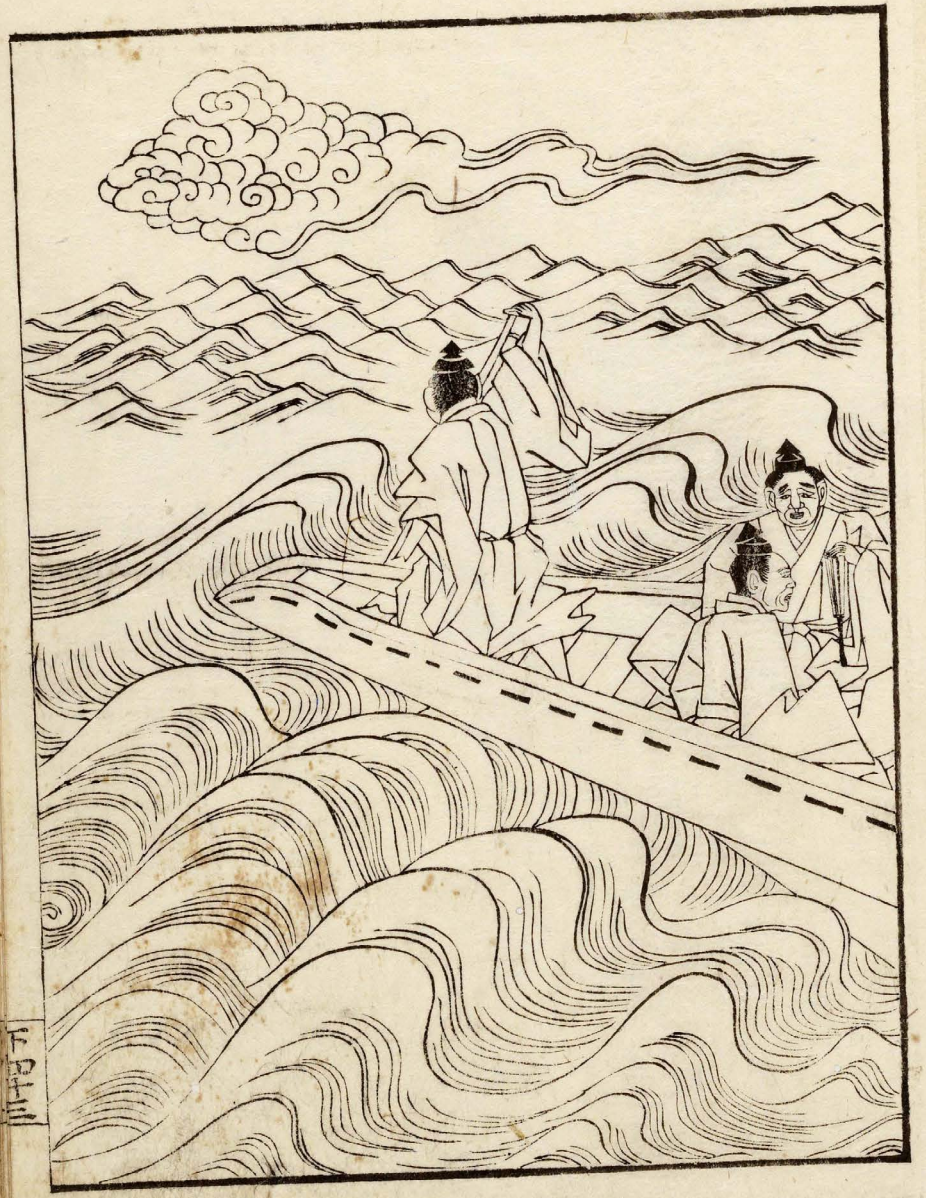


三尺五寸乃金色の弥陀乃尊影を念ずべし
つ四鬼よむひ汝等是を葬せよ。汝等ら姿ハ皆
即生即滅ものれ是ハ御姿ハ長生不死の御果
報乃御姿なり。凡六道四生ハ間ハ何ものら死ぬ。
はぬるものなりや。形おそろしくとも無常の殺
鬼ハおよる。ちうしよーそのとも獄卒
りハかなへべうぞ。日く小造る悪ハ三途隨罪乃深
重ハ悪業。夜々小男子而ハ八難に入ハ。況悪神ん。
汝等も過去り佛道執行せバ今生ふく阿鬼神の
姿をうけて死ぬ苦ぐく悪ハ紀よ。前生小佛道
修行なれ也へ今甚あげきをなる。命おぐく親子
相そんとおもハぐ今源空ハよとだ小ろこひ
南無阿弥陀佛と唱て今の穢身ハ夜くすべし
ハ身をうける時を生ごハ阿弥陀如来汝等ハ
極楽浄土小むかへ給ふ是ハ悪との無量ハ生のしゝ
更にう死ひかるこれく親子常住一所乃住居ぞ
とおしへ給へバ。四鬼ともり心をあつめて聴聞を。
諫小よにたぐぞ鬼神よ横道れしと。上人の御

ことを信じ玉われバ我等に其法我さづけたまへといふ。上人も御涙をうかべ合掌して泣ゐバ鬼神もともに手を合せ上人高壱小十念我さづけ玉へと又おしへての玉ゐく。汝等が命あらんかぎり此乃名号を唱よ。今ゆも死ゐべ直ニ如来乃来迎ある。此本尊を汝等ニ授与ス。この佛ゐ前ニて死をべきと本尊を我ニさづけ玉へバ四鬼本尊を押いただき上人ニ礼拝して帰りける。あとニて上人皆人ニ對して形ちハ鬼なれども心いさぎよく正直乃ものゆゑ往生をとげべきと作ら仏。翌朝未明ニ上人東の空をながめ人くニ告ての玉ゐく。彼鬼神ども乃さまをうかゞふことをえるよりのごとく紫雲あなどくかゝりてへ船我漕べきのたよ人くニ不思議ニおもひ死ゐるをも阿波ゝ領分ゟり死バ海岸ニ数十丈餘なる岩乃上ニ御弟子のぼり玉へバ松の枝ゟり彼本尊我ニ花をさゝりて石上に置四鬼ともニ巌上ゟり身我投ありかくと上人へ申せバ御船巌下乃磯小漕よせ玉へバ先一鬼ハ頭あさりて

死を。又毛一鬼ハ腰(こし)より二のまきりて死もされども
合掌ハらぐ乳涙(ちなみだ)のり。上人御涙よむせびきのふよ
まで人ぜをよて罪を造(つく)りし鬼神なれども
ぶ一旦乃教化ふより身命ぜ捨(すて)く往生をとげたり。
頓捨身命帰属弥陀(ほうしゃしんみょうきぞくみだ)とハいへども我(われ)ものごかぞの
志ハれし。鬼神ふハおそりなるものと御衣(おんころも)
の袖(そで)をふぐせ給ふ。船中乃人く御弟子達涙
を流し給ひり。かくて其死骸(しがい)乃事ハ阿波(あわ)の
目代(もくだい)へ申送(もうおく)るとり集(あつ)めて是(これ)を葬(ほうむ)り上ふ

一宇乃堂を建立し鬼骨寺(きこつじ)と号し。上人の御
影像ぜ安置し御遺跡を残(のこ)し今ぜ現在をり。
上人ハ夫より志度乃道場へ詣(もうで)て生福寺ぜ始せ
たまふとぞん







上人配所乃住居一させよおとゞめ。當曼のもし
免月輪殿御臨終前仰おゐる、趣をもて。光親
卿たびく申入らるといへども叡慮なほ改ざる
よしゞ。志ゐ而よ上皇御夢想ゐ御事ありまる
ゆへ中山の相國 頼實公 御父左大臣經宗公の善知
識たりし因縁ゐよて免ず。上人流刑乃事を
あびき給て念佛興行乃事ゐゞ免て佛意ゐ
そむゞざるゆへ門弟ゐあやまり状をもてこがを佛
範りおよぶさを。遠嶋流刑よせゝ事諸天

善神の照覧たりぐときよーまたてきめ
申給れバ。折ーも後鳥羽院の御願として三條
白川より遣り最勝四天王院を建て供養よ非常
乃大赦をおこなはるゝにその御沙汰ありて
同年十二月八日勅免の宣旨下さる。まことに
なや洛中より往還をさで免らるゝ五幾内のうち
ばかれることも心よはうべーその勅宣なり。この
よー都鄙ふきまよふーらで京都より門前八再會
をあろこび鄙乃土民ハ餘波ぜおーむ。あろび

とあへぬとあひあひそにぞ住まりる。かくて上人ハ
勅免宣旨ぜうけもり帰帆り趣給ふ。風波おだ
やかにしてやうやく紀伊國海士郡大川浦油
生の濱ふ御船をよせーにその礒たちまち瑠璃
乃土地と變ぜ。是をれいち上人此地ふて化導の因
緣時いたりーゆへ淨土乃宝地あるべしーんまの
今よ瑠璃の濱とぞ呼ばるふ。上人御船よりおり給
へバ折ーも當浦より邑長阿閤梨孫右エ門といふもの
行あい。上人ぜ我家よ請ー暫く御留申。浦人

とさても小福んざるよ御化導にあづかつ
かう帰敬乃あまた老若男女あげく當所の御
逗留を祈ぐ〳〵ござる。そのさかなるび御ひつ我
ぶつ火出ちゝられバ。上人これをあるれを治我
形身残しおくんと孫右ヱ門小御衣木仏を
治へバさひまい佛が辻とゆ山おて切たきし掛
け木仏をとてさりいでく坐てまつるをバ。上人こゝろ
うく彩像をきぐ〳〵試よ斧仏もて木像の背中
をうち治へバたちまち血流をいでたり是全一躰
分身の證あることぞ。其餘木おて百万遍の大念数
をはたりあるこゝあり。御出船の折御名残り御真
筆乃名号仏のこと治よ。其後一宇を創建して
彼遺像仏安置し。慈恩山報恩論寺と号し
称名おこたることりしらバはひお専念不退乃道
場とぞなれりあり



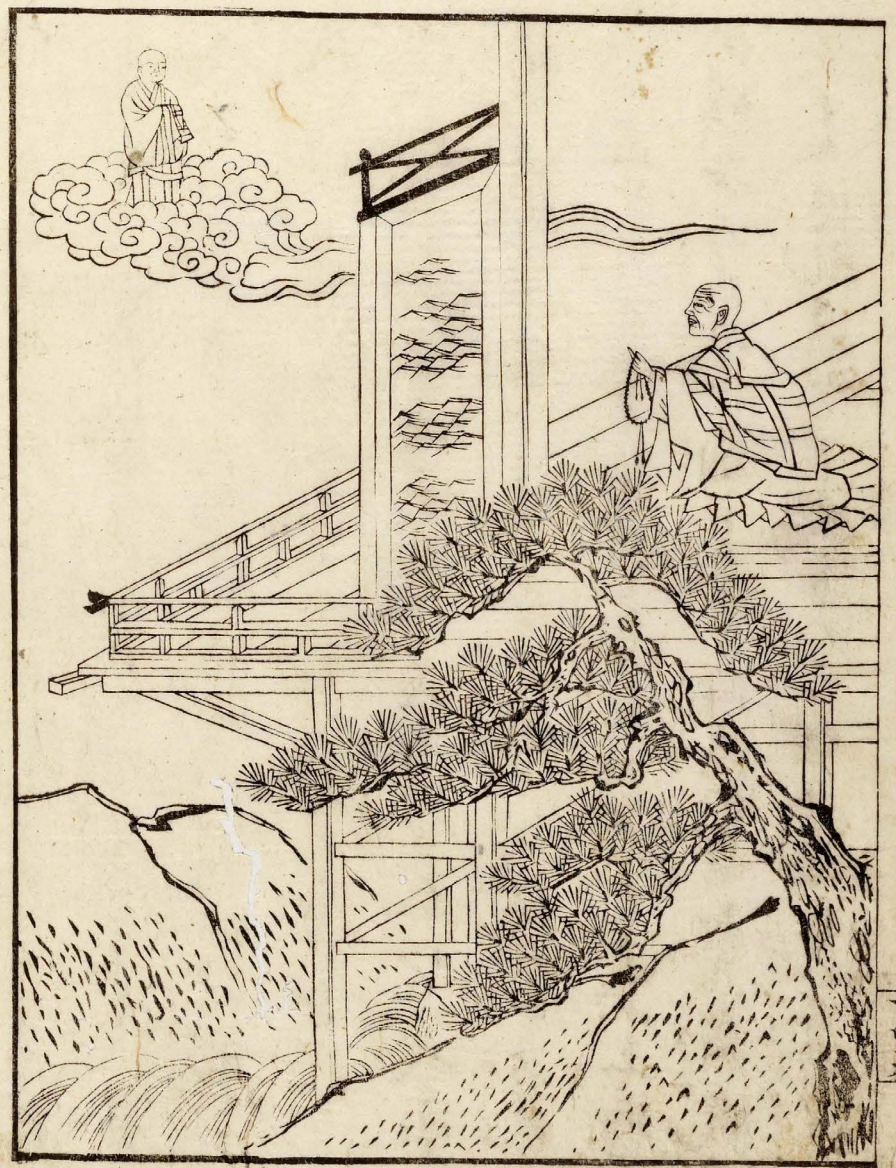


恩免(おんめん)ありといへどもなほ洛中の往還をゆるさ
ざりしかば紀州大川邊にいでおはしけるに摂津國勝尾寺
より移住(いざう)をすゝむ。此寺ハ善仲善算(ぜんざん)乃開基勝如上人
往生(わうじやう)の勝地なり。上人西乃谷観音堂の東経藏(きやうざう)の北
にあたりて庵をむすび住(すま)ゐ給ひ今ハ即二階堂と
いふ。上人此地に居給ふ事四箇年。偏に浄土乃法
なのべ念佛乃行をすゝめ給へバ老少男女随喜
をなす事風の靡くがごとし。或時上人更に
夜あづまやにて念佛し給ふに赫奕(かくやく)たる光明





西よりきたりて道場坐てまし。善導大師光中
り出現(しゅつげん)し浄土乃秘蹟(ひせき)を相承(そうじょう)ましくき。この
時二祖(にそ)ハ影像自然(しぜん)と道場左右の扱ふうつさ
て今ハ現在(げんざい)せり。且(かつ)上人在山(ざいさん)中ハ此山に一切経乃
なる事坐(ござ)間半(あいだなか)ばし上人所持の一切経を施入(せにゅう)
給(たまは)りぬれバ。住侶(じゅうりょ)歓喜(かんぎ)一老若七十余人花坐(はなざ)らし
香を焚(た)き。幢(はた)坐(ざ)らげ蓋(がい)をさしてむら〳〵
つと。上人より聖覚法印(せいかくほういん)をめして開題供養(かいだいくよう)乃
導師をたのまれける



勝尾寺乃隠居も既ニ四筒年にもなりぬれども京
都乃往還なれゆるされずして建暦元年の夏
後鳥羽院石清水八幡宮へ御幸ある所一人の娼妓
俄ニ攅ていろく星災ニ親疎なし唯善人ら
くこそ王者の徳失よりて國土ハ治乱ら我南
海乃邊邑ニ訪べき事ありて日くよ往反ま甚だ
く近代君くらを匡曲ニらく政濁人らまふ王城
の鎮守百王ハ宗廟ありく評定の事あり痛哉
天下乃逆乱遠かくごさめて後悔あんとの詫

宣旨を還御の後近臣等さゝめくよし奏聞申せしかど勅答あらざりしかば同七月のころ上皇御夢想の御事ありしかき。此事ありたゞちに勝中納言光親卿かひそかに御夢想の次第仰下さる。彼卿折をえてそやく法然上人北洛中の往還ゆるさるべき旨ありしに奏し申あれば。同年十一月十七日光親卿乃奉行ゝして花洛小還帰うるべき旨宣下

本紙ハ總本山知恩院ニアリ

をかうぶり給ねの宣下の状よりく

有所思召被恩免訖於專修之行者永不可令

更然者院宣如此仍執達如件

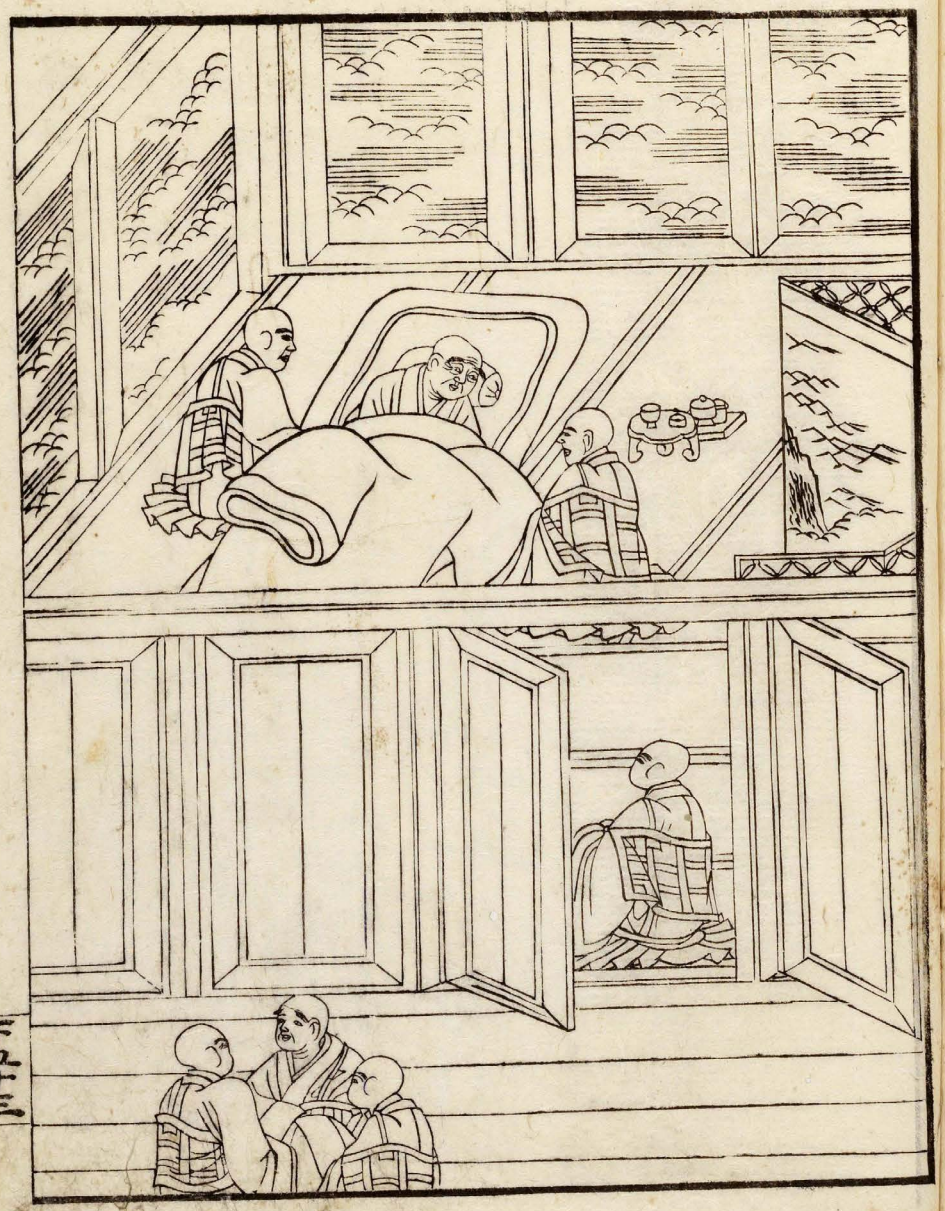
十一月十七日　　権中納言

法然御坊

是より上人洛中小往還しそよく念佛勧進し給

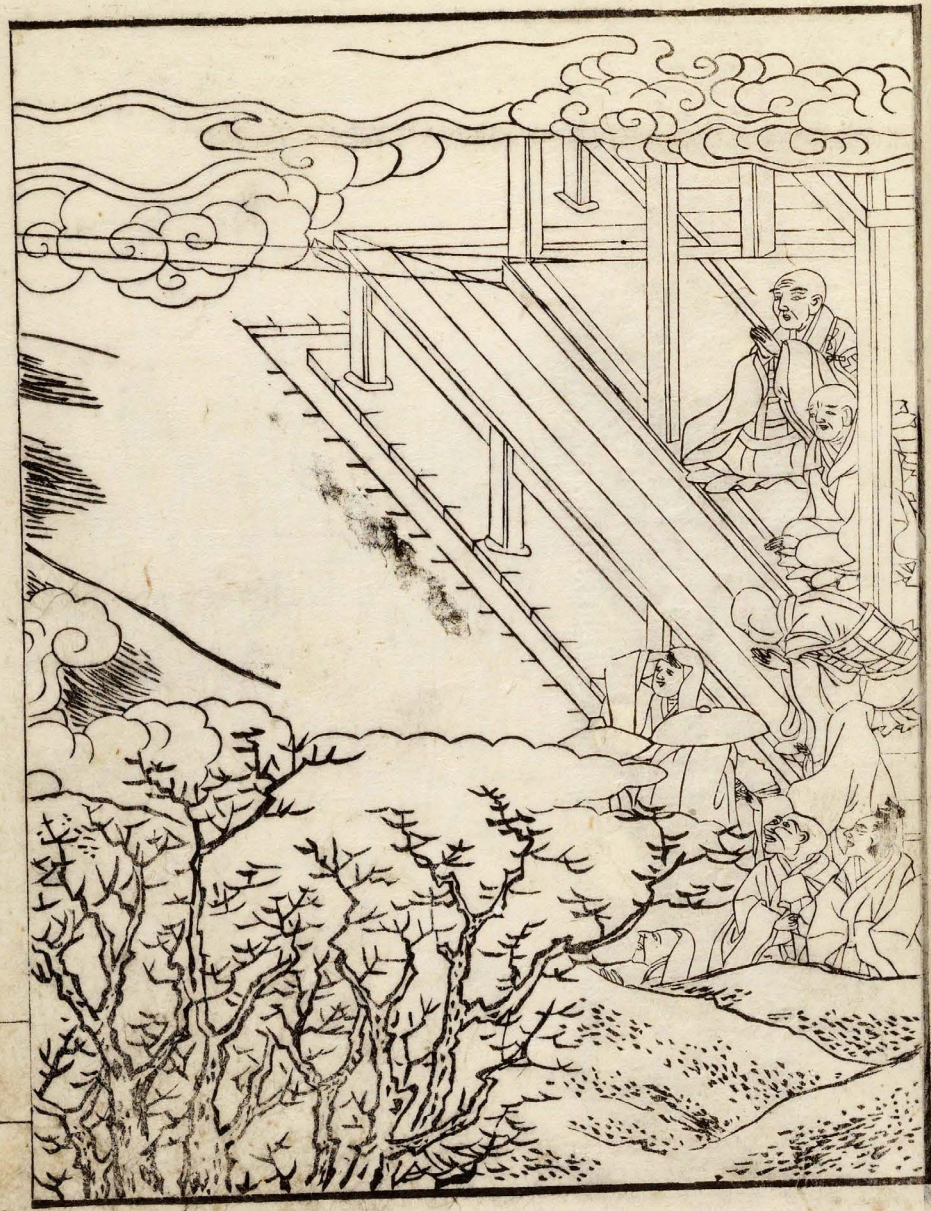
同廿日上人帰洛ありし勝尾乃一山僧坊のこゝゑび上人乃徳化をこひ餘波をあらひ花洛まで御供申送ら礼あり。慈鎮和尚の沙汰ゝして大谷乃禅房よ居住せしめ給。むらし釋尊上天の雲ありごとく給へらバ人天大會まづ拝見したてく

ありつゝ事をあつそひきいま上人南海の波をさ
のぼり給へば道俗男女さはり供養拾の餘ん事を
いとなむ群集もとも〳〵其夜のうちに一千餘人
ときこへ幽閑の地拾ひ給ひへども日〻參詣乃
人連綿としてたえざりもとめくて招ありその年
もはや翌建暦二年正月二日より上人日來不食の病
労増氣一給へり後ハ更ニ餘言なくて念佛ニ次偏り
往生乃事を談じ高声ニ念佛ニ給へ次第ニて瞳眠乃
時少と舌口さゝやくなくようごく同三日法蓮房申
さく古来の先徳ニ給ハれ其遺跡なり志ろり今精舎
一宇も建立なし御入滅の後いづく拾ぞて御遺跡
とたづぬや上人答給くあとを一廟ニとゞめられバ遺法
あまねくひろまり予ら遺跡ハ諸列ニ垂滴をべしゆへいかん
となれバ念佛乃興行ハ愚老一期乃勤化なりされバ
念佛拾修せん所ハ貴賤を論ぜず海人漁人がとまで
やまでこゝろこゝろ予ら遺跡なるべしとぞおほせ給
ける廿四日の酉乃剋より廿五日の巳時ニいたるまで
も高声念佛をせめて無間なり廿五日午剋ニハ念



佛よ御色やう〳〵とゝのほりて。まさしく臨終の
のそみ給へり。慈覚大師の九條乃袈裟をうけ頭北
面西ホーて光明遍照の文をとなへて孫ひざく
ーて息たえ給ぬ。音色さながらそのうつくしき舌を
うごかし給事十餘遍あり。面色とかわざやうよ形
容あるより仏あり建暦二年正月廿五日午の正中あり
春秋八十ホまち給御弟子其外貴賤老若哀傷
とる事考妣を喪するごとし〳〵

168487









剏糧資助名件

金三兩阿州撫艱光德上人爲練禦僊俊藝上人并
春譽性因圓譽妙義追福　阪陽小橋傳光了山上
人金二兩爲德相有隣居士始因妙終大姉兆蓮社
載譽上人追資　并京師有信輩阿州有信族各々
師僧父母六親眷屬法衆衆生同生安艱速證佛果

願以此功德　平等施一切
同發菩提心　往生安樂國

沙門聲譽謹誌

168487

